

令和3年度「長岡市ものづくり未来支援補助金」

IoTスイッチ技術を用いた 療育向けカメラアプリの開発

令和3年6月25日(金)

株式会社ロレムイプサム
代表取締役 薄田 達哉

国立大学法人長岡技術科学大学
助教 永森 正仁

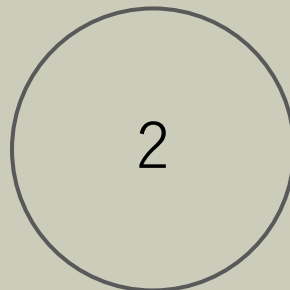
国立大学法人新潟大学
教授 長澤 正樹

発表内容



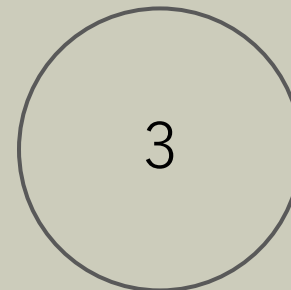
目的

- 療育について
- ターゲット
- アプローチ



事業内容

- これまでの取り組み
- 今回の取り組み



計画

- 収益化
- 目標
- 事業化状況

療育について：障害のある子どもの社会的自立を支援



療育教室のイメージ

1,277

億円

児童発達支援
の年間総費用額 (※1)

1

割

療育サービスの
利用者負担

3,287

億円

放課後等デイサービス
の年間総費用額 (※1)

4,600

円

利用者負担の
月額上限 (※2)

※1 厚生労働省 障害福祉サービス等の利用状況（令和2年11月12日）

※2 市民税所得割額28万円未満の場合（年収で約890万円以下）

ターゲット：家庭・教育現場・専門家の連携

Before



療育の指導は難しい...

- ☐ 一人ひとりニーズが異なる
- ☐ 目に見えないものを扱う

After



連携を促すためには...

- 客観的データの収集
- 体系的な分析

アプローチ：ショートビデオ + 応用行動分析

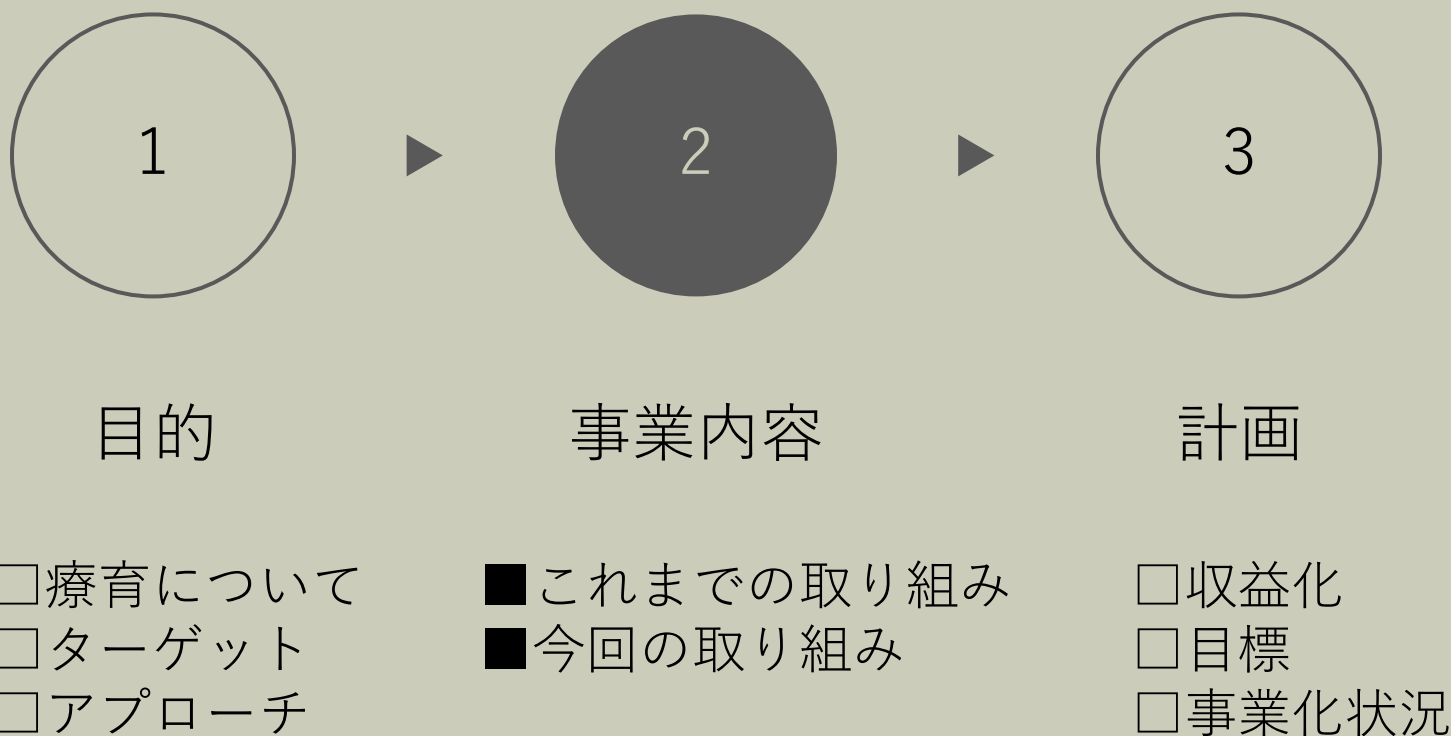
① スマホ／タブレットによる
ショートビデオの撮影



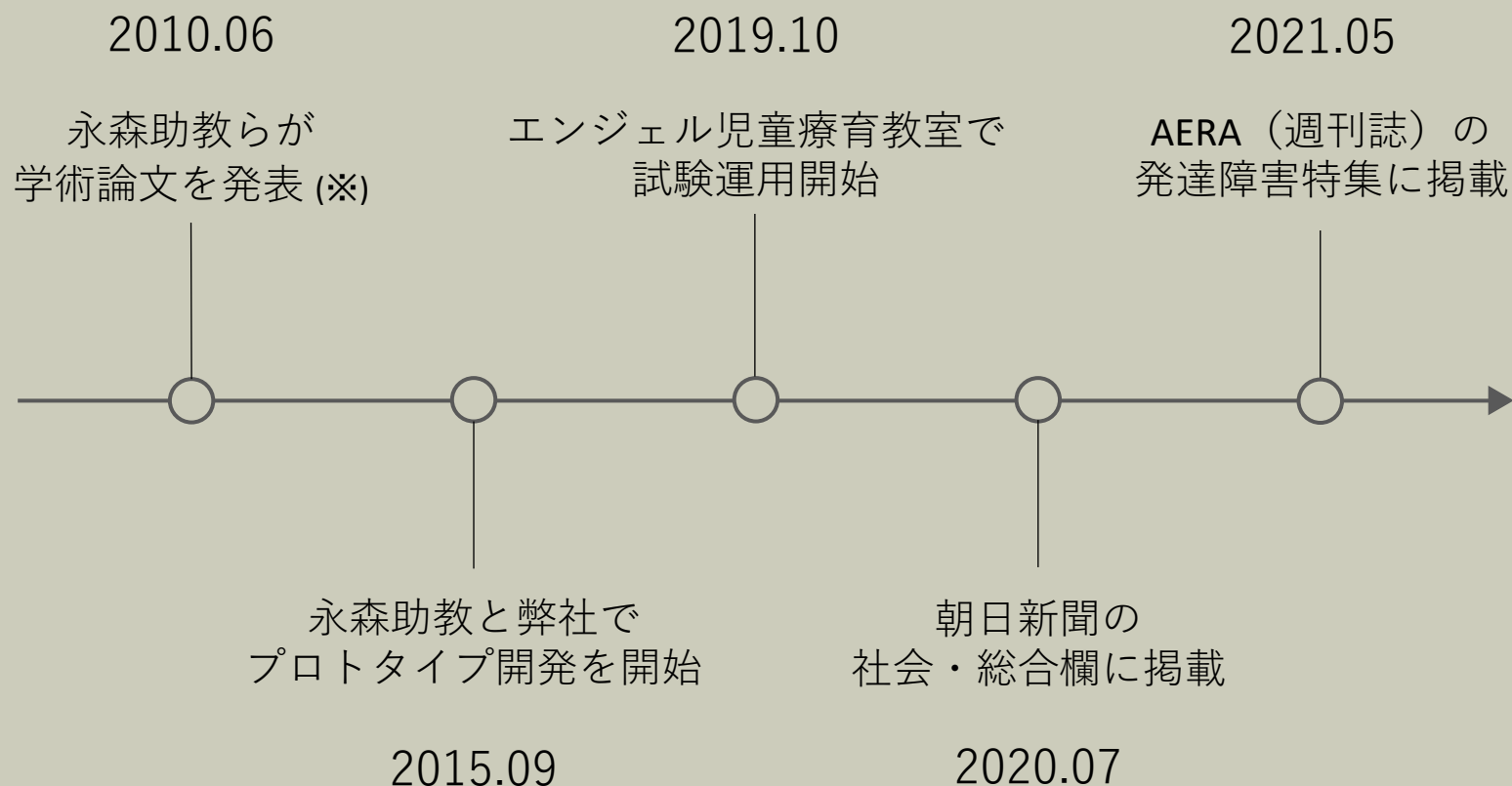
② 応用行動分析を用いた
現状・課題の把握



発表内容（再掲）



これまでの取り組み



※ Webカメラを用いた特別支援教育における突発的な児童問題行動の記録・共有システム、永森正仁・長澤正樹・植野真臣、日本教育工学会論文誌2010年34巻1号、pp.1-12

今回の取り組み

Before

- ① ビデオの撮影開始に
専用のスイッチ機器が必要



- ② Webアプリとして
特定少数のユーザーだけに提供



After

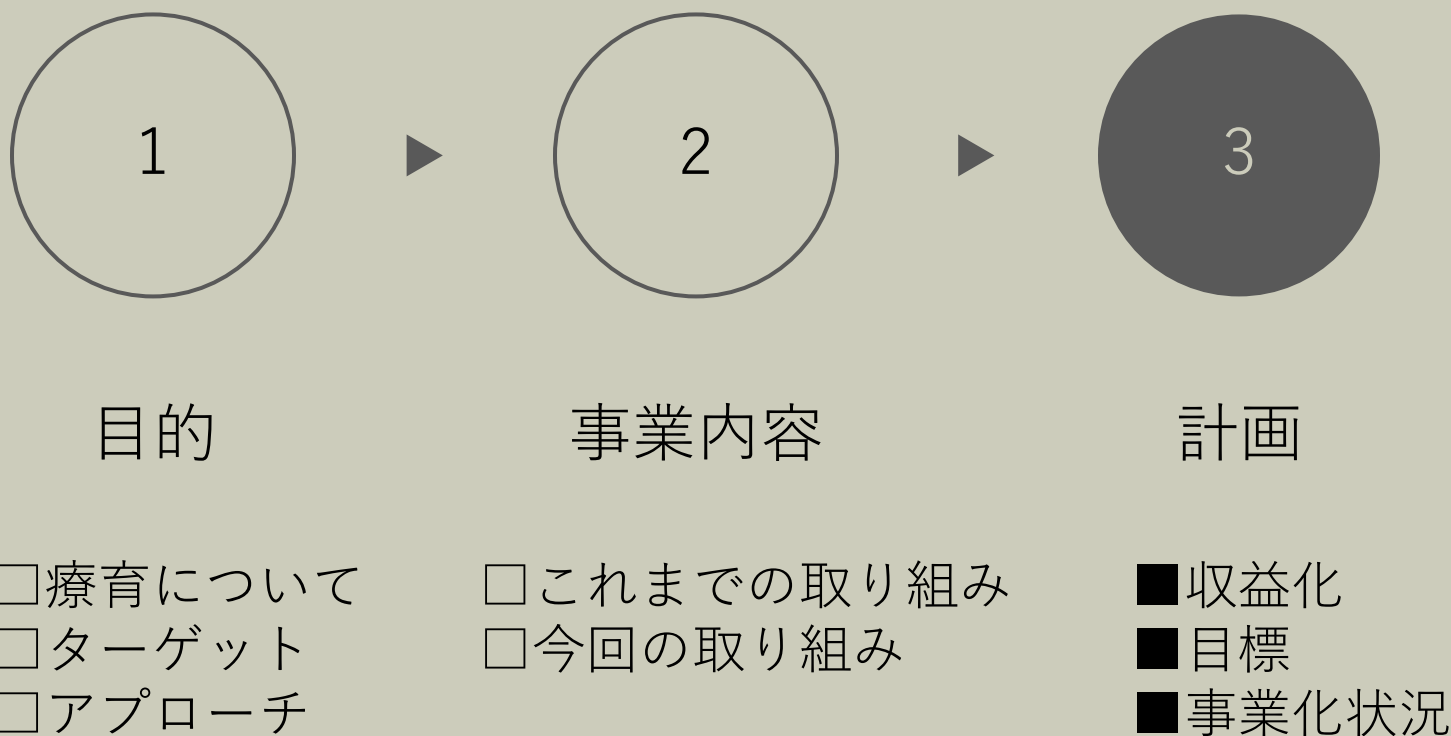
- ① IoTスイッチ技術を用いて
専用のスイッチ機器を不要に



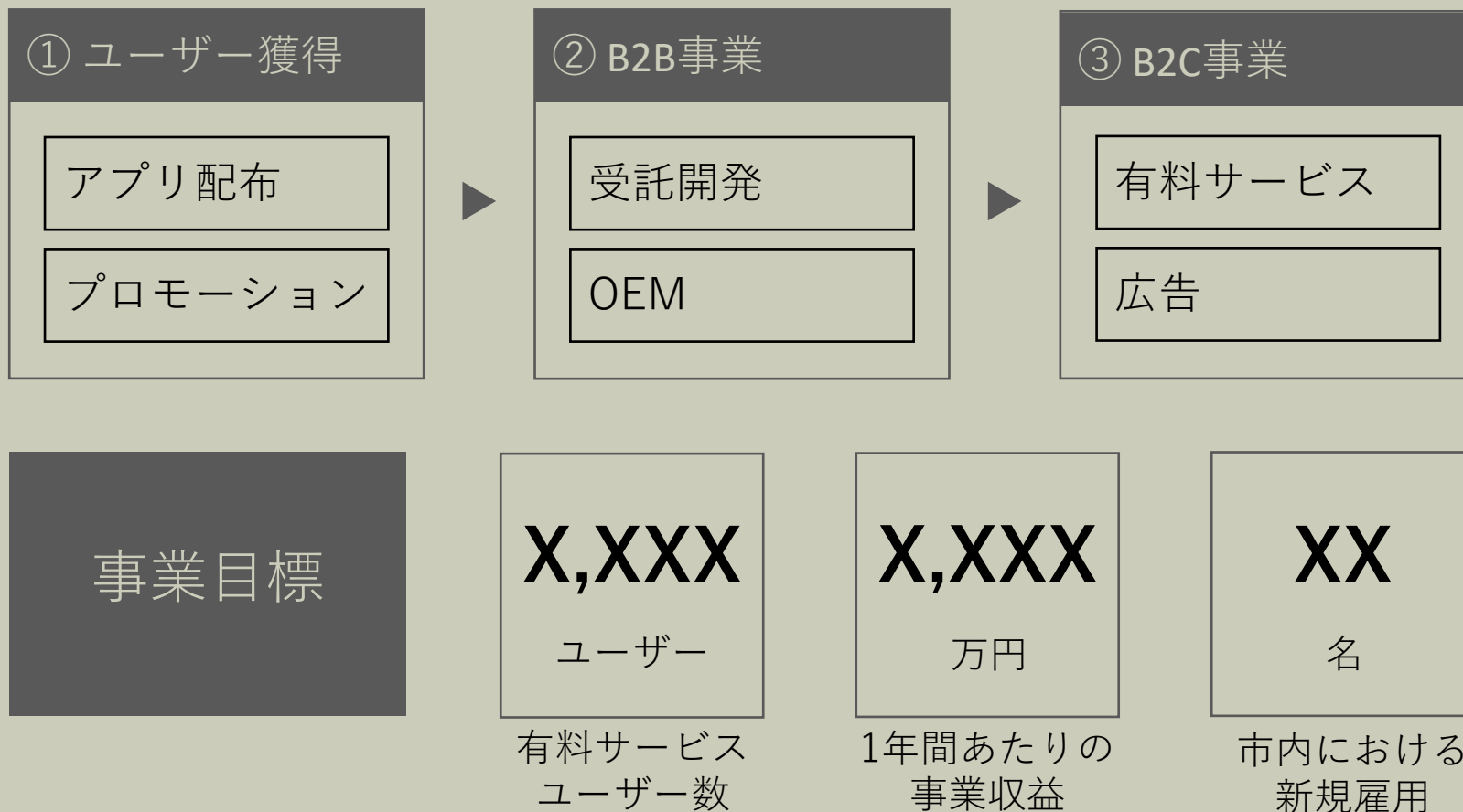
- ② iPhone/Androidアプリとして
公式アプリストアで提供



発表内容（再掲）



収益化までのステップ／事業目標



事業化状況：長岡市ものづくり未来支援補助金（過去2年間）

- 令和1年度
合理的配慮における
保護者と当事者が継続的に活用可能な
eポートフォリオ・システムの試作



X,XXX

万円

令和2年度の
関連収益

- 令和2年度
光学式ウェアラブル心拍計を用いた
ストレス状況把握システムの開発



X,XXX

万円

令和3年度の
関連収益

まとめ

目的



ショートビデオ



応用行動分析

事業内容



IoTスイッチ技術の導入



アプリストアで配布

目標

X,XXX

万円

1年間あたりの
事業収益

X

名

市内における
新規雇用

チャレンジ



【これまで】
評価・分析・考察を
学術機関へ委託



【今回】
学術機関支援のもと
自社で主体的に実施

付録

開発の経緯：きっかけはユーザー様からの声

①クラスの様子をビデオ撮影



②見直して指導方法を改善



お困りごと

見たい場面への早送りや巻戻しに手間がかかる

応用行動分析について

状況

行動

対応

A

+

B

→

C

(例) スーパーで

駄々をこねたから

お菓子を買い与えた



スイッチ押下から20秒さかのぼって録画を開始するしくみ

